エクステリアプランニング　調査・基本設計

1　プランニングの目的とは？

2　プランニングのプロセス

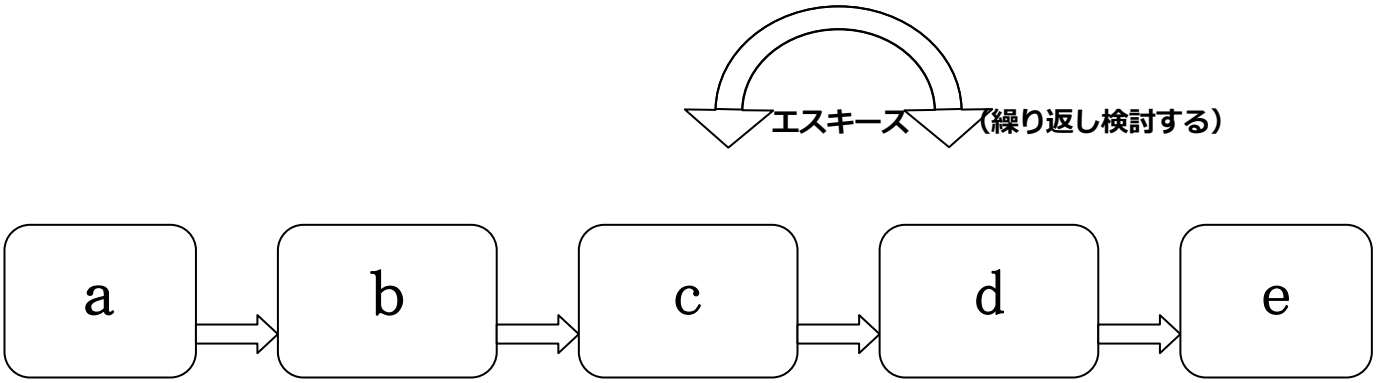
a

b

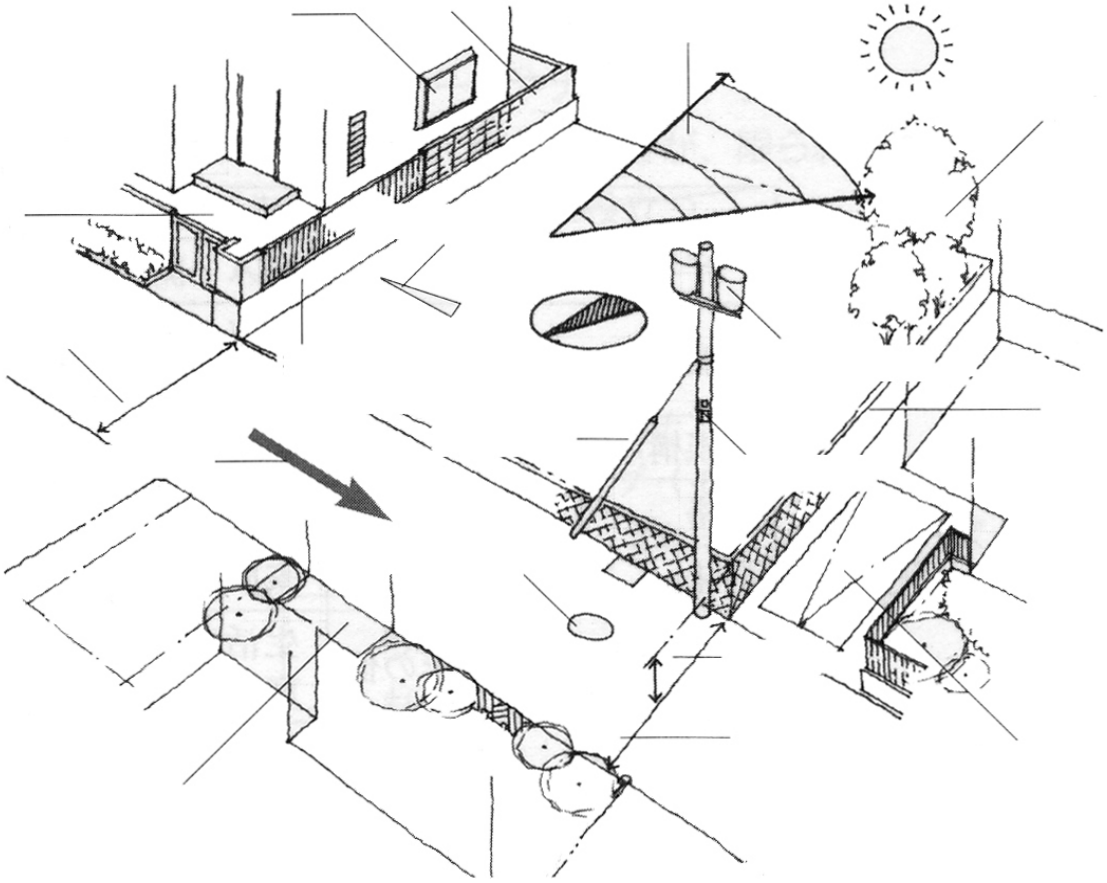
c

d

e



3－1　調査（コンサルティング）－　敷地の調査の例



敷地関連の条件別チェックポイント

		チェックポイント
敷地条件	方位	
	前面道路	
	高低差	
	周辺	
	隣地	
	その他	
地域条件	気候風土	
	まちなみ	
	防犯	
法的条件	建築基準法	
	建築協定	
	風致地区	

※上記以外にも地域の事情に合わせ条例等により規制が異なることもあり、所轄官庁との打合せが必要となる場合がある。

３－２　敷地分析結果の空間的表現例

グラフや表によって表現できる情報もあるが、空間情報と結びつけて初めて意味を持つものが多い。

敷地と敷地周辺の分析で空間表現すべきもの

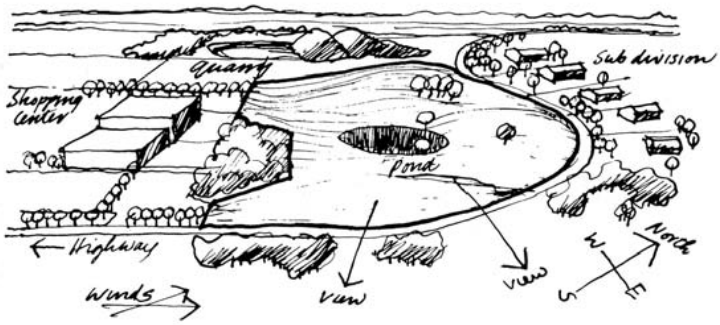
景観条件（地形、眺望、シンボル）

自然条件（植物、土壌、地質、水分、日照、気候）

人文条件（歴史、文化、アクセス、アメニティ、安全、利用）等々

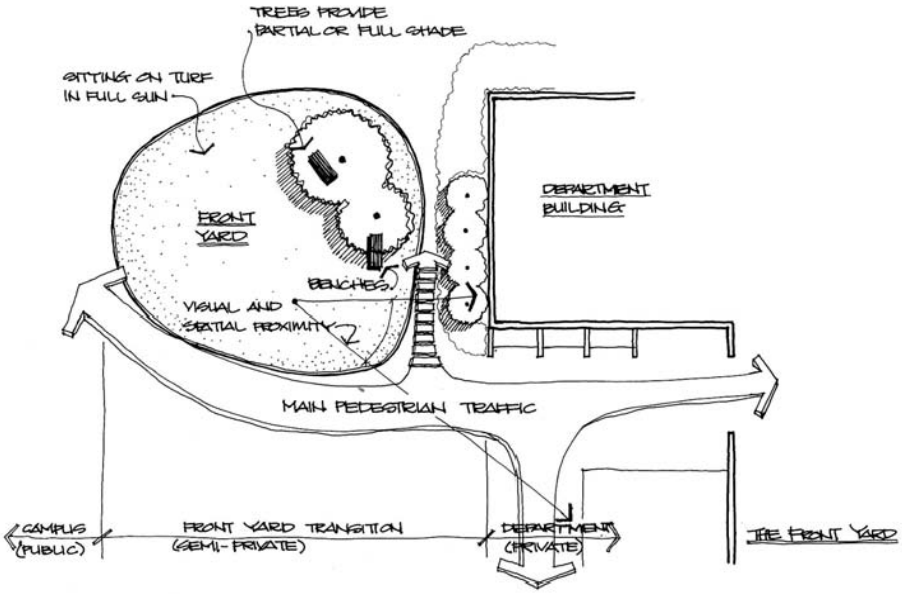
敷地分析の結果を空間とうまく結びつけて表現した例を以下に示すので、参考にしてほしい。

例１．Michael Laurieによる敷地分析



景観資源である池や敷地内から**眺望可能な方向**が示されている

例 2．Clare Cooper Marcus による敷地分析の例



歩行者の主要な**動線（移動に使う線）や休憩スペースをデザインする**のに必要な情報が簡潔に示されている

例３．三方向が道路に囲まれた敷地の特性を活かすための分析例

＜道路に関する敷地分析＞

東側の道路：道幅が狭く、通行車両も少ない「生活道路」的な位置づけ。

北側の道路：道幅が狭く、通行車両も少ない「生活道路」的な位置づけ。昔からの道路で、ヒューマンなスケール感が残る。つながりを断ち切らないよう注意する必要がある。

南側の道路：近年設けられた道路。ゆったりとした歩道があって道幅が広い。今後交通量が多くなる「幹線道路」的な位置づけ。

＜設計の構想＞

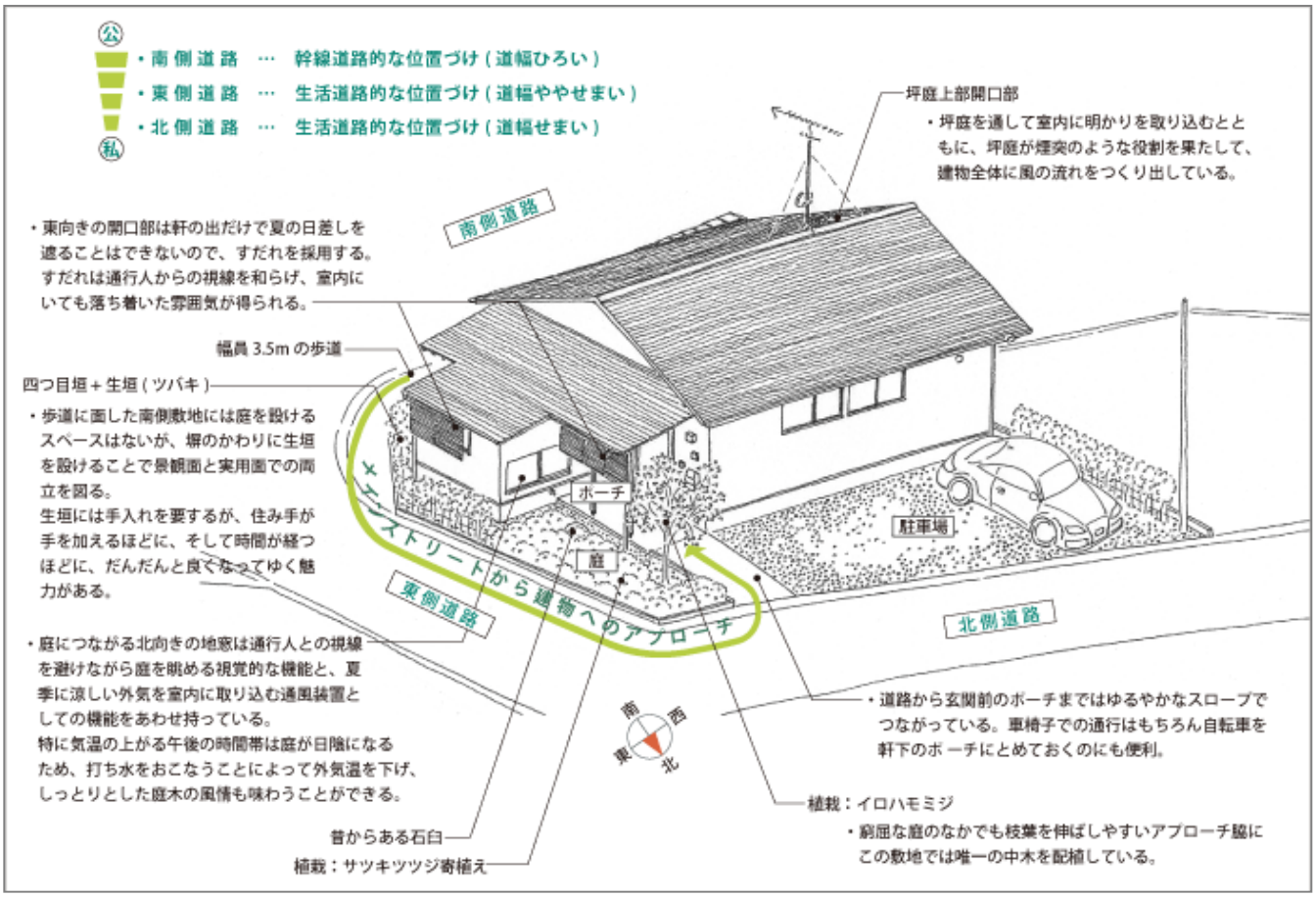
1　幹線道路側を「四つ目垣」と「生垣」を組み合わせて建物をガードする。

2　生活道路側は「ツツジの寄植え」とし、徐々に垣根を下げる親しみやすい植栽手法を採用。

3　狭い道路の曲がり角を「ツツジ」とし、車の通行時の見通しを確保＆適度な減速を促がす役目を期待。街区のコーナーを緑化し、視覚的な効果を含めて模範的な街並みのあり方を示す。

4　幹線道路から玄関に至るには、生垣に沿って生活道路へと折れ曲がり、サツキツツジ越しにすだれの掛かったポーチを見ながら主木となるモミジの周りをめぐり、ゆるやかなスロープを上がって土間の縁側のような玄関へと導かれる。

5　建物に沿った道路をアプローチと見立て、限られた敷地を最大限に活用する。



３－２　居住者条件（ヒアリング＝>実現可能なものに優先順位をつけて具体化する設計作業のうちのひとつ）

	チェックポイント

４　コンセプト（設計方針［ 設計の方向性 ］）とは？

全体イメージの方針（デザインタイプ）

（　　）

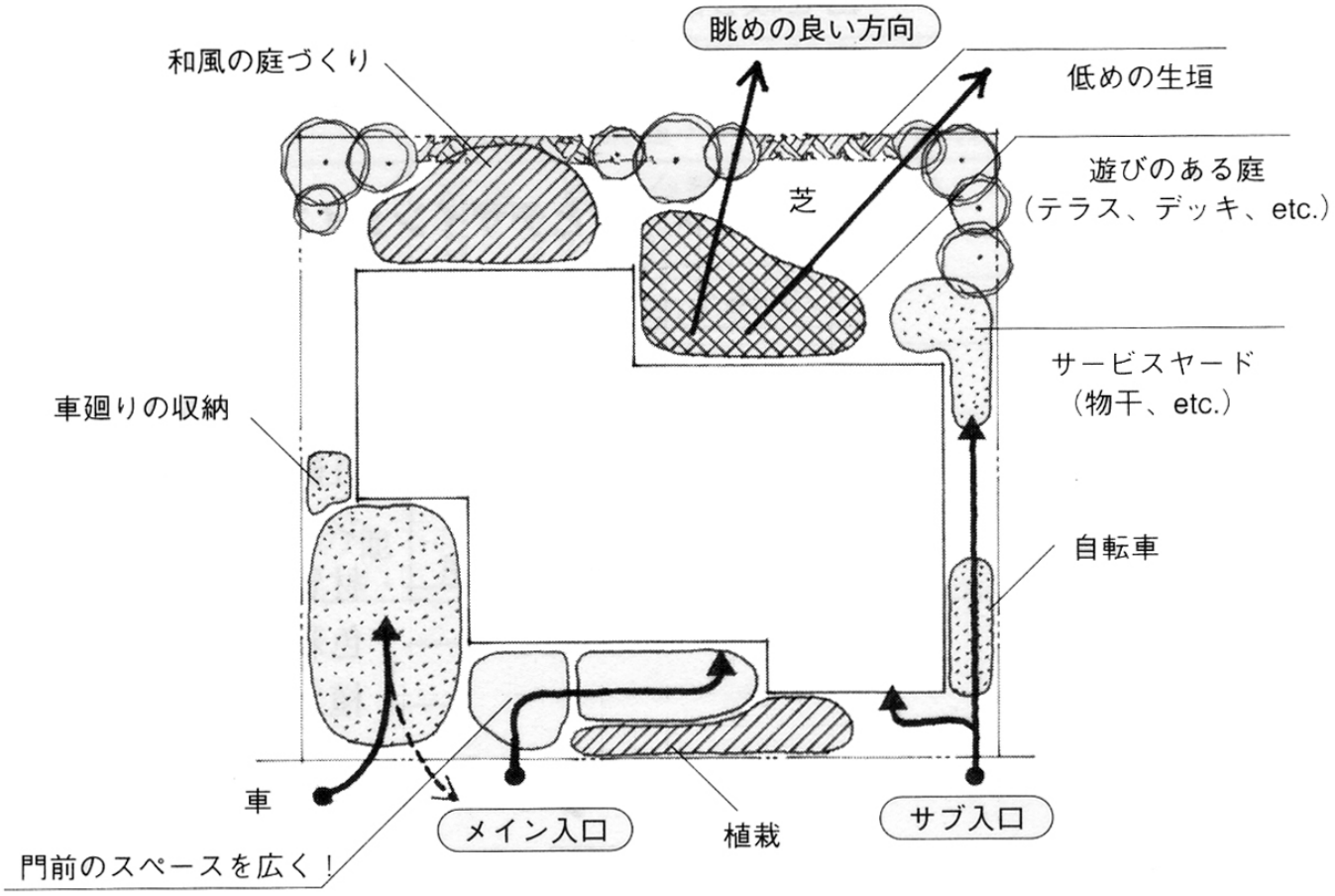
各部のイメージ

（　　）

（　　）

（　　）

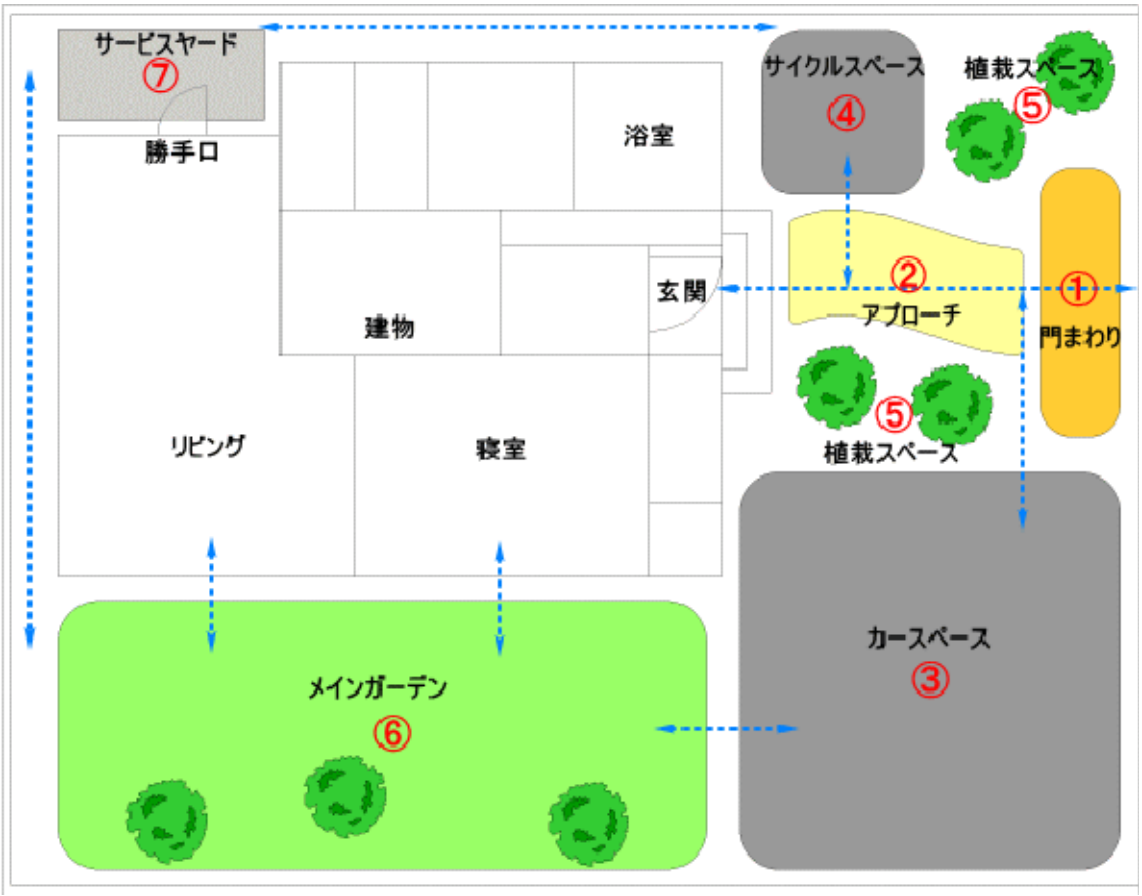
5　ゾーニング＆ラフスケッチ



<ゾーニングのチェックポイント>

パーツ	チェックポイント
①門廻り	
⑤前庭 （植栽スペース）	
③駐車場 ④駐輪スペース	
⑥主庭 （メインガーデン）	

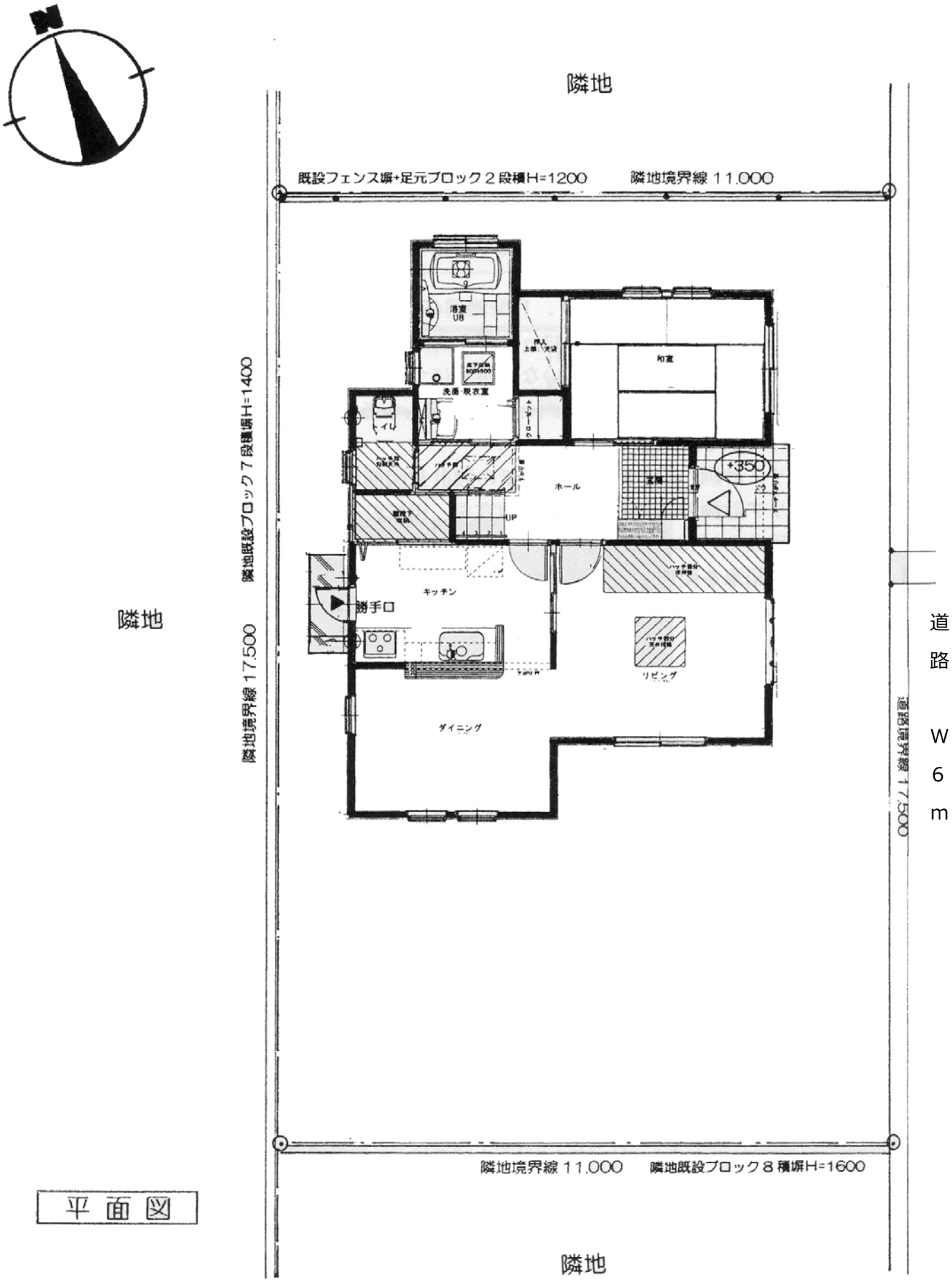
パーツ	チェックポイント
②アプローチ	
⑦中庭	
⑦裏庭	
⑦サービスヤード	



<ゾーニングの手順>

	チェックポイント
手順１ 門廻り	
手順２ 駐車スペース	
手順３ アプローチ	
手順４ 主庭	
手順５ 裏庭	
手順６ サービスヤード	

簡単なゾーニング練習（ラフスケッチ）　　家族構成:小学生(男)と中学生(女)の子と祖母がいる５人家族



平面図